

- 医薬品の適正使用に欠かせない情報です。必ずお読み下さい。 -

「使用上の注意」改訂のお知らせ

抗ウイルス化学療法剤 [非ヌクレオシド系逆転写酵素阻害剤 (NNRTI)]

エジュラント[®]錠 25mg

(一般名：リルピビリン塩酸塩錠)

2026年3月

製造販売元 ヤンセンファーマ株式会社

この度、標記製品の「使用上の注意」を一部改訂致しましたので、お知らせ申し上げます。
今後のご使用に際しましては、下記の改訂部分にご留意の上、改訂電子添文をご参照下さいますようお願い申し上げます。

《今回の「使用上の注意」の改訂内容につきましては、医薬品安全対策情報 (Drug Safety Update) No.344 (2026年4月発行) に掲載される予定です。》

© Janssen Pharmaceutical K.K. 2026

TV-FRM-06072
Version 6.0

Page 1 of 3

【改訂内容】

厚生労働省医薬局医薬安全対策課長通知（令和8年3月17日付）に基づく改訂

部：追記箇所

改 訂 後	改 訂 前																													
<p>2. 禁忌（次の患者には投与しないこと） 2.1 <略> 2.2 リファンピシン、カルバマゼピン、フェノバルピタール、フェニトイン、フェニトイン・フェノバルピタール、ホスフェニトイン、<u>アパルタミド、エンザルタミド、デキサメタゾン</u>（全身投与）（単回投与を除く）、セイヨウオトギリソウ（St.John's Wort、セント・ジョーンズ・ワート）含有食品、プロトンポンプ阻害剤（オメプラゾール、ランソプラゾール、アスピリン・ランソプラゾール、ラベプラゾール、エソメプラゾール、ボノプラザンフマル酸塩、アスピリン・ボノプラザンフマル酸塩）を投与中の患者 [10.1参照]</p> <p>10. 相互作用 <略> 10.1 併用禁忌（併用しないこと）</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">薬剤名等</th> <th style="text-align: center;">臨床症状・措置方法</th> <th style="text-align: center;">機序・危険因子</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="3" style="text-align: center;"><略></td> </tr> <tr> <td>カルバマゼピン テグレート フェノバルピタール フェノバル等 フェニトイン アレピアチン、ヒダントール フェニトイン・フェノバルピタール ヒダントール D/E/F、複合アレピアチン ホスフェニトイン ホストイン [2.2参照]</td> <td rowspan="2">本剤の血中濃度が低下し、本剤の効果が減弱するおそれがある。</td> <td rowspan="2">これらの薬剤の CYP3A 誘導作用により、本剤の代謝が促進される。</td> </tr> <tr> <td><u>アパルタミド</u> <u>アーリーダ</u> <u>エンザルタミド</u> <u>イクスタンジ</u> [2.2参照]</td> </tr> <tr> <td>デキサメタゾン（全身投与）（単回投与を除く） デカドロン等 [2.2参照]</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="3" style="text-align: center;"><略></td> </tr> </tbody> </table>	薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子	<略>			カルバマゼピン テグレート フェノバルピタール フェノバル等 フェニトイン アレピアチン、ヒダントール フェニトイン・フェノバルピタール ヒダントール D/E/F、複合アレピアチン ホスフェニトイン ホストイン [2.2参照]	本剤の血中濃度が低下し、本剤の効果が減弱するおそれがある。	これらの薬剤の CYP3A 誘導作用により、本剤の代謝が促進される。	<u>アパルタミド</u> <u>アーリーダ</u> <u>エンザルタミド</u> <u>イクスタンジ</u> [2.2参照]	デキサメタゾン（全身投与）（単回投与を除く） デカドロン等 [2.2参照]			<略>			<p>2. 禁忌（次の患者には投与しないこと） 2.1 <略> 2.2 リファンピシン、カルバマゼピン、フェノバルピタール、フェニトイン、フェニトイン・フェノバルピタール、ホスフェニトイン、デキサメタゾン（全身投与）（単回投与を除く）、セイヨウオトギリソウ（St.John's Wort、セント・ジョーンズ・ワート）含有食品、プロトンポンプ阻害剤（オメプラゾール、ランソプラゾール、アスピリン・ランソプラゾール、ラベプラゾール、エソメプラゾール、ボノプラザンフマル酸塩、アスピリン・ボノプラザンフマル酸塩）を投与中の患者 [10.1参照]</p> <p>10. 相互作用 <略> 10.1 併用禁忌（併用しないこと）</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">薬剤名等</th> <th style="text-align: center;">臨床症状・措置方法</th> <th style="text-align: center;">機序・危険因子</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="3" style="text-align: center;"><略></td> </tr> <tr> <td>カルバマゼピン テグレート フェノバルピタール フェノバル等 フェニトイン アレピアチン、ヒダントール フェニトイン・フェノバルピタール ヒダントール D/E/F、複合アレピアチン ホスフェニトイン ホストイン [2.2参照]</td> <td rowspan="2">本剤の血中濃度が低下し、本剤の効果が減弱するおそれがある。</td> <td rowspan="2">これらの薬剤の CYP3A 誘導作用により、本剤の代謝が促進される。</td> </tr> <tr> <td>デキサメタゾン（全身投与）（単回投与を除く） デカドロン等 [2.2参照]</td> </tr> <tr> <td colspan="3" style="text-align: center;"><略></td> </tr> </tbody> </table>	薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子	<略>			カルバマゼピン テグレート フェノバルピタール フェノバル等 フェニトイン アレピアチン、ヒダントール フェニトイン・フェノバルピタール ヒダントール D/E/F、複合アレピアチン ホスフェニトイン ホストイン [2.2参照]	本剤の血中濃度が低下し、本剤の効果が減弱するおそれがある。	これらの薬剤の CYP3A 誘導作用により、本剤の代謝が促進される。	デキサメタゾン（全身投与）（単回投与を除く） デカドロン等 [2.2参照]	<略>		
薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子																												
<略>																														
カルバマゼピン テグレート フェノバルピタール フェノバル等 フェニトイン アレピアチン、ヒダントール フェニトイン・フェノバルピタール ヒダントール D/E/F、複合アレピアチン ホスフェニトイン ホストイン [2.2参照]	本剤の血中濃度が低下し、本剤の効果が減弱するおそれがある。	これらの薬剤の CYP3A 誘導作用により、本剤の代謝が促進される。																												
<u>アパルタミド</u> <u>アーリーダ</u> <u>エンザルタミド</u> <u>イクスタンジ</u> [2.2参照]																														
デキサメタゾン（全身投与）（単回投与を除く） デカドロン等 [2.2参照]																														
<略>																														
薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子																												
<略>																														
カルバマゼピン テグレート フェノバルピタール フェノバル等 フェニトイン アレピアチン、ヒダントール フェニトイン・フェノバルピタール ヒダントール D/E/F、複合アレピアチン ホスフェニトイン ホストイン [2.2参照]	本剤の血中濃度が低下し、本剤の効果が減弱するおそれがある。	これらの薬剤の CYP3A 誘導作用により、本剤の代謝が促進される。																												
デキサメタゾン（全身投与）（単回投与を除く） デカドロン等 [2.2参照]																														
<略>																														

【改訂理由】

厚生労働省医薬局医薬安全対策課長通知（令和 8 年 3 月 17 日付）に基づく改訂

「2. 禁忌（次の患者には投与しないこと）」及び「10. 相互作用」

アパルタミドまたはエンザルタミドの CYP3A 誘導作用により、本剤の代謝が促進され、本剤の血中濃度が低下することが考えられます。その結果、本剤の効果が減弱するおそれがあるため、本剤の国内電子添文においてアパルタミド及びエンザルタミドを「2. 禁忌」及び「10.1 併用禁忌」の項に追記し、注意喚起を行うことといたしました。

最新電子添文情報は医薬品医療機器総合機構情報提供ホームページ（<https://www.pmda.go.jp/>）に掲載されていますので、あわせてご利用ください。

また、下記バーコードを「添文ナビ®」で読み取ることで、電子添文及び関連文書を閲覧いただけます。

GS1



(01)14987672117607